



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



ウメ（鹿児島紅）（大阪城公園・大阪市内）

トピックス：令和7年度国有林モニター会議等について（企画調整課）

ニュース：企画調整課、箕面森林ふれあい推進センター、技術普及課

花草木：マテバシイ

我が署のスタッフ：福井森林管理署

森林事務所等紹介：津山森林事務所（岡山森林管理署）

国有林最前線：山口森林管理事務所

令和7年度国有林モニター会議等について

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、開かれた「国民の^{もり}森林」としての国有林の管理経営や国民視点に立った行政をより一層推進していくため、情報の受発信による対話型の取組を進めています。

その取組の一環として、国有林の事業運営等について国民の皆さまに理解を深めていただくとともに、ご意見やご要望をお伺いして国有林野行政に反映させる取組を実施しています。

国有林モニターの方々を国有林に案内し、意見等を直接伺う「国有林モニター会議」を令和7年11月21日（金）に^{みのお}箕面国有林（大阪府箕面市）で開催し、8名の国有林モニターの方に「日本美しの森 ^{すす}お薦め国有林」のひとつ、「^{めいじ}明治の森^{みのお}箕面自然休養林」の見学と、森林環境教育の取組を視察いただき、意見交換を実施しました。



^{めいじ}明治の森^{みのお}箕面自然休養林
見学の様子

はじめに、勝尾寺の東に位置する箕面国有林「勝尾寺園地」を散策した後、「エキスポ'90 ^{みのお}みの記念の森」へ移動し、園内を見学しました。また、箕面森林ふれあい推進センターの職員が、小学校の教科書に出てくる馴染みのある植物を確認しながら知識を深める「教科書にのっている植物MAP」や一班5～6人程度で設問ポイントを探しながら、自然環境や歴史・文化などを学ぶ「森の探検隊」などの森林教育プログラムを紹介しました。



森林環境教育の取組説明 見学の様子

参加者からは、「平日にもかかわらず国有林への入林者が多い」との驚きの声や、「国有林における市民の触れ合いの場所がどのようになっているのか良く分からなかったが、見学により理解できた」等の声がありました。

意見交換会では、見学した内容に対する感想や国有林野事業への意見・要望を多数いただきました。

これらの意見・要望は、今後の国有林野の管理経営に反映させるよう努めてまいります。



意見交換会の様子

また、年に1回、「国有林モニターアンケート」を実施し、国有林に対するイメージや御意見・御要望、期待されている取組等の把握に努めています。

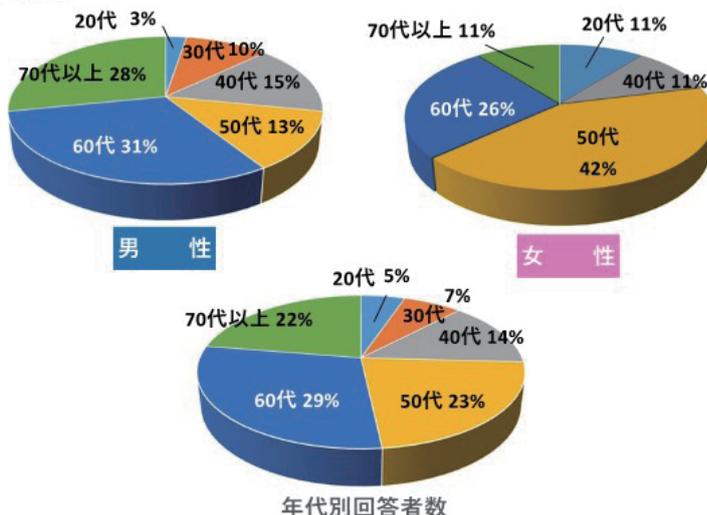
令和7年度 「国有林モニターアンケート」調査結果

近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

※パーセンテージ（％）表示は、小数点以下を四捨五入している都合上、合計が100%にならない場合があります。

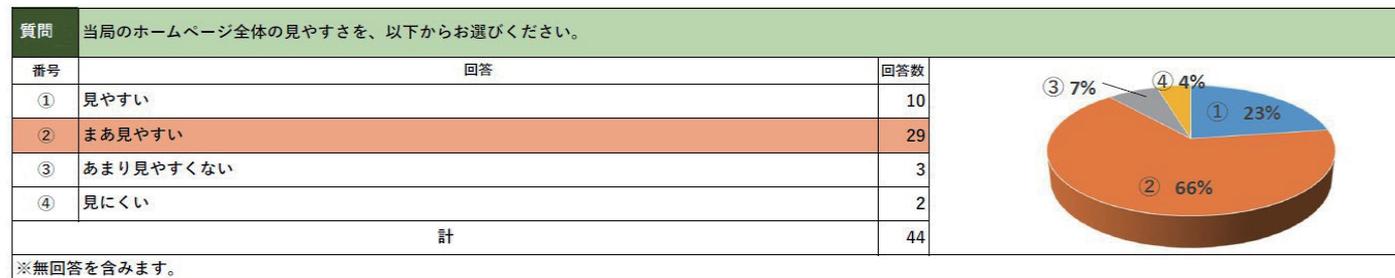
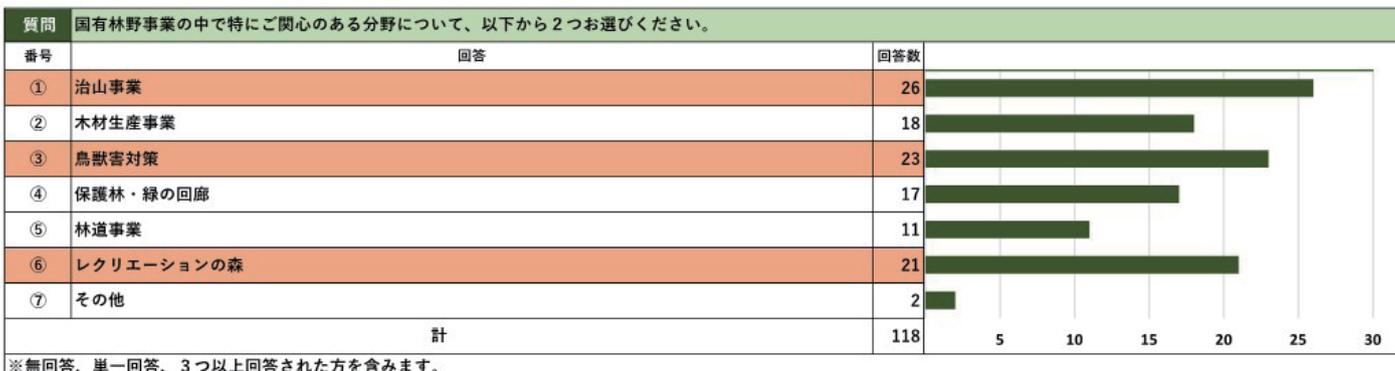
調査時期 令和7年7月
 調査方法 アンケート用紙の郵送による回答及び専用フォームからの回答
 回収状況 アンケート依頼モニター数 65名
 アンケート回答者数 58名
 アンケートの回答率 89%

内 訳



ご回答いただいたモニターの年代別構成 (人)

区分	男性	女性	計	割合
20代	1	2	3	5%
30代	4	0	4	7%
40代	6	2	8	14%
50代	5	8	13	22%
60代	12	5	17	29%
70代以上	11	2	13	22%
計	39	19	58	—
全モニター数 (未回答者含む)	41	24	65	—



近畿中国森林管理局では、これからも分かりやすい情報発信に努めるとともに、皆様からのご意見・ご要望等を細やかに聞き取りたいと考えています。

近畿中国森林管理局管内国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました。

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、令和8年1月8日（木）近畿中国森林管理局において、令和7年度近畿中国森林管理局管内国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催しました。

協議会会長の福元宍粟市長より挨拶をいただいた後、林野庁三上管理課長と上口局長が挨拶を行いました。



福元会長挨拶



林野庁三上課長挨拶



上口局長挨拶

その後、会議の議長に福元宍粟市長を選出し会議が進められました。

会議の内容は、協議会の令和7年度の活動報告、林野庁、森林管理局からの情報提供等が行われ、その後、意見交換会を行いました。意見交換会では「森林環境譲与税の活用」「主伐・再生林の推進」等の意見が出されました。



会長就任の挨拶をする櫻井新会長

今回の協議会では、役員の改選があり、会長が福元宍粟市長から櫻井亀山市長に交代しました。

近畿中国森林管理局では、協議会で出された意見等を踏まえ、今後も、より一層地域に貢献できる取組に努めてまいります。

「草木染めイベント」を開催しました。

【箕面森林ふれあい推進センター】

箕面森林ふれあい推進センターでは、令和8年1月25日（日）、桜ノ宮合同庁舎1階「こもれび」において、「サクライロをつくろう ～草木染め体験～」を開催しました。



染色作業の様子

草木染めの材料は、^{みのお}箕面国有林に植栽したエドヒガンです。良好に生育させるために間引いて、本来は林内に放置される枝を、染色材料として利用しました。

講師には、兵庫県川西市で活動されています三木氏をお迎えして、17名の参加者にお集まりいただきました。まず、木綿のハンカチと小袋に、出来上がりの模様を想像しながら、ビー玉や輪ゴムなどを使って模様をつけます。その後、エドヒガンを煮だした染色液に、それぞれの作品を染み込ませていきます。講師から、「同じ材料を使っても、生きものなので二度と同じ色にはならない」「スギの若い枝葉も、エドヒガンに負けないくらいピンク色に染まる」「草木染めの色は、派手さはないものの清楚な色合いとなる」などのお話を聞きながら、染色作業を行いました。



出来上がった作品

作業開始から2時間、作品を作り終えた参加者からは、エドヒガンのピンク色としっかりと模様が表現された作品に驚きと感動の声が上がりました。また、参加された子供たちが、大人に負けず一所懸命に作品づくりをしていた姿をほほえましく感じました。

令和7年度 森林・林業交流研究発表会を開催しました。

【技術普及課】

近畿中国森林管理局では、令和8年2月3日（火）から令和8年2月4日（水）の二日間にわたり令和7年度 森林・林業交流研究発表会を開催しました。

この研究発表会は、森林・林業に関する研究や取組の成果を発表する場として、職員以外にも当局管内から幅広く発表者を募り、京都府や兵庫県内の高校生をはじめ、県の研究機関など多くの林業関係者の皆様から発表いただきました。



発表会の様子

今回は、低コスト造林の取組、シカやウサギなどの獣害対策、ICTやドローンを活用した事例の紹介など、地域の課題に密着した幅広い研究・取組の全24課題の発表があり、審査の結果、8課題が局長賞ほかの入賞となりました。

また、特別研究発表では、試験研究機関から「森林における降水と渓流水の水質への環境影響と施業影響」「銘木『滑マツ』に由来する抵抗性アカマツ品種の開発」「大阪府におけるシカ生息状況モニタリング～多様な主体の連携による高密度地域及び侵入初期地域での動向把握～」「スギA材の利用拡大に向けて～丸太のヤング係数による製材の強度区分～」について、発表いただきました。

参加いただきました皆様、ありがとうございました。

各賞の受賞者名、各発表内容など、詳しくは下記のホームページで公表しています。

ホーム>報道・広報>イベント情報>森林・林業交流研究発表会>令和7年度

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

ホーム>報道・広報>イベント情報>森林(もり)のギャラリー

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【森林整備課】

○令和8年「昭和100年記念分収造林」(グリーン・シェアリング)の公募について

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム 申請>お問い合わせ 公売>入札情報 入札情報 企画競争>公募情報 令和8年「昭和100年記念分収造林」(グリーンシェアリング)の公募について

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/apply/publicsale/seibi/R7bunzou.html>



【林野庁】

○宣言いただける自治体・企業等の募集しています。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

ホーム>分野別情報>「『森の国・木の街』づくり宣言」

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/rinyahp/20251001-1.html>





「森の国・木の街」づくり宣言

「『森の国・木の街』づくり宣言」とは
自治体や企業等の皆さまが

- ①建築物の木造化などの木材利用の推進
- ②木材利用の効果の見える化

に取り組むことを宣言するものです。





花草木

【マテバシイ】

マテバシイ（ブナ科オニガシ属 マテバシイ学名：Lithocarpus edulis）は、日本固有種の常緑高木で本州、四国、九州、沖縄、に自生していますが、暖かい気候を好むようです。

昔から公園、街路樹などに植えられ、旧来の分布ははっきりしなくなっています。果実は渋みがなく、炒って食べるとスダジイ、ツブラジイと同じように食べられます。味はやや薄いようです。

果実は秋 10 月頃になりますが、食べることのほか他のドングリと同じように木工細工の材料にも使用されます。

花言葉は、「長寿」「もてなし」「永遠の愛」などです。



大阪市内の公園で見つけたマテバシイの果実（どんぐり）

我が署のスタッフ 福井森林管理署

湯地 純子（ゆじ じゅんこ）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として様々な業務に取り組んでいますが、冬の福井は積雪の影響があり現場に行くことが出来ないため、来年度に向け治山工事の発注準備など事務作業を行っています。雪が降るまでに必要な材料を集めておくこと、常に先のことを考えて動くことの大切さを実感しています。

また、治山以外に林道の業務にも携わっています。知識と経験を増やし、スマートに業務遂行できるように頑張りたいと思います。



コンパス測量を行っている様子。

【職場の雰囲気は？】

仕事で困ったことを相談する環境はもちろん仕事以外の日常の悩みも相談でき、和気あいあいとした明るい職場です。

【林野庁の魅力は？】

木材利用や森林整備など多岐にわたる業務に携われること、そしてやはり現場作業があることが林野庁の魅力だと思います。

森林事務所等紹介

津山森林事務所（岡山森林管理署）

首席森林官 鳥谷 啓輔（とりたに けいすけ）

津山森林事務所は岡山県津山市に所在する岡山森林管理署の庁舎内にあります。

管轄区域は津山市の一部（旧津山市、旧久米町）、美作市、鏡野町の一部（旧富村）、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町、西粟倉村の2市5町1村で、国有林21団地3,504ha、官行造林11団地489haを管理しています。

管内の代表的な国有林である那岐山^{なぎさん}国有林は、岡山県と鳥取県との県境に位置しており、両県から年間延べ1万人近くの登山客が訪れるほどの人気があり、木材生産も活発で令和7年度は約2,000m³を生産しており、令和8年度以降も同程度の生産量を見込んでいます。



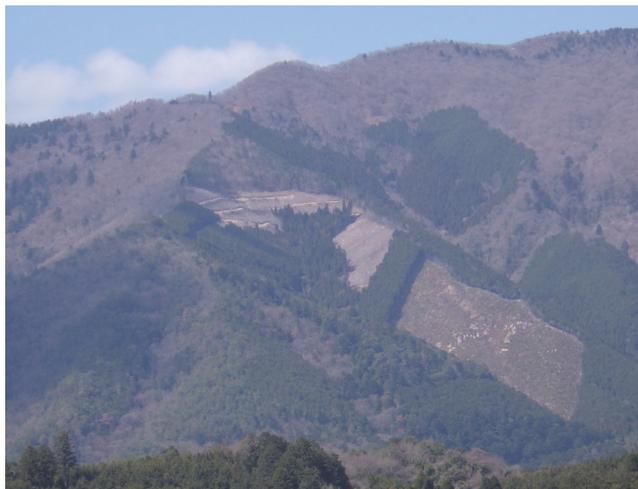
那岐山国有林：那岐山麓山の駅より望む（皆伐跡地より上部から国有林）

また、陸上自衛隊日本原駐屯地の北側に位置する滝山^{たきやま}国有林に入林する際は同駐屯地内を通る必要があり、かつて、ぬかるみにはまって動けなくなった当事務所の官用車を戦車で引き揚げてもらったという逸話もあります。

もうひとつの代表的な国有林は大戸山^{だいとやま}国有林で、全体的に高齢級林分が多いことから、伐採・再造林が進められています。



大戸山国有林：再造林後5年目の風景



滝山国有林の遠望

管内には、「道の駅 久米の里（通称ガンダム公園）」「津山城跡（鶴山公園）」「衆楽園」「津山まなびの鉄道館」などの観光名所も多くありますので、近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

シリーズ『国有林 最前線！』

希少の銘木「滑(なめら)マツ」

山口森林管理事務所

山口森林管理事務所は県内の国有林 8,022ha を管理しており、中でも県中央部に位置する滑山国有林(山口市)は約 2,500ha と県内最大の国有林です。

滑山国有林の歴史は古く、約 840 年前の源平の戦いで焼失した東大寺の再建用材として大勸進職^{なめらやま}※¹の俊乗房重源^{だいかんじんしき}によって伐採搬出されたのが始まりとされており、江戸時代には毛利藩によって管理されて以降、明治 14 年に国有林として管理されました。

滑山国有林の中腹から尾根にかけて自生する樹齢 200 年以上、胸高直径 60 cm 以上の良質な天然のアカマツが通称「滑マツ」として賞賛されており、①樹幹は通直でうらごけ^{しゅんじょうぼうちやうげん}※²が少ない、②枝下が高く枝が少ない、③樹皮が極めて薄い、④年輪幅が狭く均等で偏心がない、⑤心材部分が多く、赤色鮮明で光沢があり辺材が少ないのが特徴です。

昭和 40 年には皇居新宮殿「松風の間」の内装用材として使用され、昭和 42 年から 43 年にかけて、国指定の名称「錦帯橋」の修理用材として滑マツが使用されました。

しかし、その後マツ枯れや台風被害などにより本数が激減したため、平成 2 年には滑マツが多く残る区域を「滑山林木遺伝資源保存林」に指定し、後継樹育成のためのアカマツ稚樹の刈出し、滑マツ保護のためマツの幹の直接薬剤を入れる樹幹注入などを実施しています。

また、平成 26 年には滑マツの保全と理解の増進に資することを目的に、県内の有識者を中心に「滑マツ保存会」が設立され活動を行っています。

山口森林管理事務所では、今後もこの希少な銘木を後世に残すため、保全と再生に向けた取組を進めてまいります。



滑山国有林 (滑マツ)



下から見上げた滑マツ

※ 1 中世以降の寺社における造営・修復の財源確保や工事管理の最高責任者を指す役職名。

※ 2 うらごけ (梢殺) とは、樹幹 (木の幹) が根元から先端に向かって、急激に細くなっている状態を指します。対義語は、かんまん (完満) で細りが少なく、ほぼ円柱状に通直 (まっすぐ) な状態を指します。